

# 害虫の発生状況を遠隔からモニタリング —IoTを利用し、害虫の発生調査を自動化する装置を開発—

- ・ フェロモントラップに捕殺された害虫を、IoTカメラを用いて自動で画像取得。
- ・ トランプ内の捕殺害虫は撮影後に自動廃棄され、害虫発生調査に係る労力を大幅に削減。
- ・ 日単位の捕殺データ取得が可能なので、精緻な害虫の発生状況を迅速に把握。
- ・ 防除を要する害虫や防除対策に関する情報のタイムリーな農業者等への提供に貢献。

研究機関: 農研機構

## 従前の技術

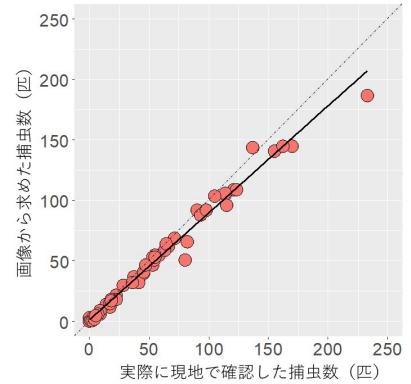


特定の害虫を誘引するフェロモン剤を付けたプラスチック製容器・粘着板等を使って捕虫数を**人力で調査**

## 開発した技術



- ✓ 装置に搭載されたIoTカメラによって、遠隔から毎日捕殺データを取得可能
- ✓ 捕殺した害虫は自動で廃棄



装置内から回収された実際の捕虫数と、画像から求めた捕虫数の相関係数は**0.9以上**

## 導入により期待される効果

精緻な害虫発生情報を農業者等に迅速に提供し、適時適切な農薬散布や防除対策の検討ができることで農業生産の安定・向上への貢献が期待される。